

第26回ベストスイマー2025表彰式開催のご報告

～ 昨年に引き続き、5名が受賞されました ～



泳力認定委員会主管の「第26回ベストスイマー表彰式2025」が、6月24日（火）、東京ドームホテルにて開催されました。

受賞されたのはいずれも各支部から推薦のあった方で、遠藤雅輝さん（東北・ピュアスポーツ福島南スイミング）、本間茂樹さん（信越・アクシーMAKI）、坂本勝之さん（北陸・金沢スイミングクラブ西泉教場）、森久加奈さん（近畿・JSS 東花園スイミングスクール）、木村悦子さん（中国・JSS スイミングスクール出雲）の5名が受賞されました。※坂本勝之さんはご欠席のため、（一財）金沢スイミングクラブの藤田信好さんが代理で登壇されました。

受賞者のご紹介

先天性疾患であるダウン症児として生を受け、5歳から水泳を始めた遠藤さん。きっかけは「自分の命を自分で守れるようになって欲しい」というご両親の思いからだったそうですが、めきめきと頭角を現し、数々の障害者の大会で好成績を残すように。現在はピュアスポーツ福島南スイミングの会員でありながら、同クラブで勤務もされていて、「ピュアのお仕事大好き！コーチもみんな大好き！これからも練習とお仕事両立して大会も頑張ります！」と語られたお顔は輝いていました。Virtus 国際大会（国際知的障がい者スポーツ連盟が運営する国際競技大会）への出場と、背泳ぎで優勝するという夢、応援しています！



遠藤 雅輝（えんどう・まさき）さん



本間 茂樹（ほんま・しげき）さん

現在のスマートな出で立ちからは想像できませんが、33年前、メタボで医師から何度も警告を受け、リハビリを兼ねてクラブに入会された本間さん。2014年にマスターズ大会に出場してからすっかり水泳にハマり、元々の趣味だったゴルフより水泳に励む毎日に。「プールは天候が悪くても出来るし、泳げば気持ちも体もすっきりします。肩を痛めてバタフライに出場できず悔しいけれど、気持ちを切り替え自由形で頑張ります！」と、奥様と一緒に全国各地での大会を楽しんでいらっしゃるご様子でした。表彰式でご家族を前にしたガッツポーズがとても格好良かったです！

これからを元気に過ごす為にと、カナツチながらも、定年後に奥様と一緒に水泳を始めた坂本さん。約3年で4泳法を習得された後もコツコツと練習を続けられ、75歳当時は25・50mバタフライの石川県新記録を樹立。80歳までは飛び込みスタートも行っていらしたそうです。24年続けた水泳はライフワークの1つで、年齢や泳げないことを理由に水泳を始めるのを躊躇されている方に対し、ご自身の経験を踏まえ「やってみなければ、水泳が自分に合うかどうか分からないから、1回思い切って試してみよう！」と温かいメッセージをいただきました。



坂本 勝之（さかもと・かつゆき）さん ※



森久 加奈（もりひさ・かな）さん

お兄様に続いて3歳から水泳を始めた森久さん。最初は泣いて嫌がっていたそうですが、高校生で全国大会初出場、その後もインカレ・日本選手権・実業団等で活躍されました。現在は10歳の息子さんを持つ46歳のお母さん。時間を見つけて練習を続け、マスターズ水泳の世界記録を34個、同日本記録を3個保持しています。当面のモチベーションは「息子が小学生の間はタイムを抜かれない！」こと。5月に息子さんが全国大会出場を決めたと同いしましたが、お母さんも負けじと頑張っています。これからも親で競いながら、水泳を楽しんでくださいね！

なんと御年96歳の木村さん。高等女学校時代に水泳部に所属し、県代表に選ばれたこともありましたが、戦争で部活動が出来なくなり一度は水泳から離れられました。60歳の時に「今までは家族や子供のために頑張ったのだから、今度は自分の為に自分が1番好きだったことをしよう！」と水泳を再開され、昨年、95歳で50・100・200m平泳ぎのマスターズ水泳短水路世界新記録を樹立されました。現在の目標は100歳での世界新記録樹立。「この歳だと危ないから止めろとよく言われるけれど、普通の生活じゃつまらないわ！」とお茶目に語っておられました。これからも長生きで頑張ってくださいね！！



木村 悦子（きむら・えつこ）さん